

2011年 トーラ村緑化事業 報告書

資金源：ラウル株式会社・GNC Japan

記述者：ツォゴー／GNC Mongolia

尾上／GNC Japan

【背景及び目的】

本事業は 2010 年に実施したトーラ村緑化事業の継続事業である。身近に「緑豊かな住みよい環境」を整備することで、緑化への魅力を感じ、自然と環境へ目を向け、自ら実践しようとする村民を育成する、活気のある村作りのモデル地域を作ることを目指している。また、村の活性化を目指した人材育成のため、子供を対象に各種活動を実施し、この事業の主体を育成することを目的とする。

【事業対象地】

緑化モデル地域は、ウランバートル中心部から南西 35km のところに位置する、ウランバートル市トーラ村で、人口が約 3500 人、約 1001 世帯が生活している。

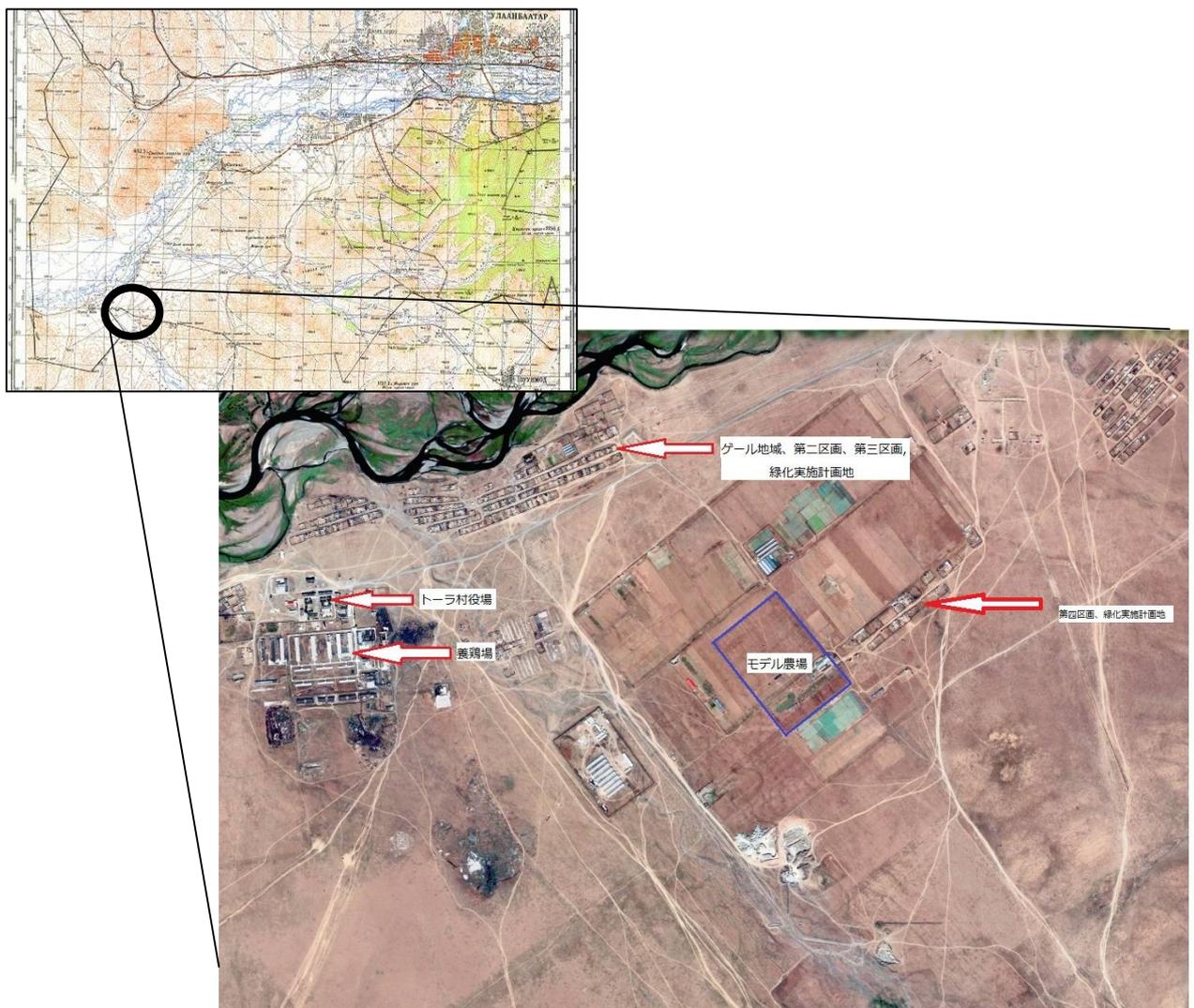


図. トーラ村 モデル農場周辺

【事業概要】

トーラ村の一面には GNC のスタッフが経営している農場があり、農場を中心に、①緑化普及事業 ②防風林事業 ③苗木育苗事業 の 3 事業を実施し、緑化を進めている。

さらに農場内において、2011 年秋季に日光温室の造成に着手した。

【本年度事業報告】

① 緑化普及事業

本事業では、村人に「植物を育てる」意識をもってもらい、緑化への魅力を感じてもらうことを目的としている。

普及事業について、2011 年は計画年と位置づけし、今後の有効な事業推進のためどういった活動を進めるべきか検討を行った。この検討にはモンゴルの抱える教育問題、家族問題、社会問題、慣習なども考慮に入れ、単に植樹活動への住民参加が緑化普及への意味を持つか、体験者が将来的に自ら行動を起こすまでになるか、など主に教育の面から今後の方向性について再度確認を行った。

まず、モンゴルのマイナスの慣習と活動の考え方・方向性を整理する。

	マイナスの慣習	活動の考え方・方向性
①	競争相手が増えることを嫌がるため自分がやっていることを他人に教えない。資料がない、資料に残さない気質。	相手に自分のやっていることを教えていくことで、互いに高め合うという考え方が望ましい。 →子供のうちは柔軟性があるため、子供を対象として様々な講座を開講する等
②	機械を購入するのはお金さえあれば誰でもできる。しかし、壊れたときは自分で直せない。	自分で作れば自分で直せるし自信がつく。少し苦勞することがあれば、努力する力が生まれる。 →物づくりの講座を開く

上記のように基本的には子供を対象にした物づくりの講座開講や活動を行うことを大きな柱と考えた。

・植樹活動

苗木の育成、苗畑管理、防風林の植栽、穴掘り等、現場での作業を通し実践的な経験を共有する。子供達が植栽を希望する場合は、材料となる苗木は GNC が提供する。

・地域活性化活動

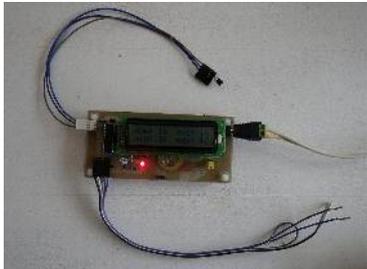
回覧板の発行出版・・・防災情報や地域情報を盛り込む、広報、人集め、コミュニティー形成
子供達が回覧板を作る。日本のノウハウや出版拠点を提供する。

・各種機材づくり

孵卵器（孵化に最適な温度を保つための恒温槽）鶏の卵を孵化させ、家庭の庭で放し飼いの鶏

を飼い増やすことにより、食料になることと、餌の植物を調達する必要があるため、植物に対する考え方を享受することがねらいである。冬季は暖める施設を作る必要がある。孵卵器の温度制御装置をつくる講座を開講する。

以下はその教材例。

	<p>温度制御装置の教材例（ツォゴー作）</p>
	<p>時間制御タイマーの教材例（ツォゴー作）</p>

以上の活動を進めるため2012年は準備を行い、2012年の後半から子供の教育活動を開始する。最初は5～6名程度の予定である。

② 防風林事業

防風林事業に使う苗木の絶対量が不足しているため、本年は苗畑での種子採取を主に行った。

昨年まで成長の早さからシャルホワイス（マメ科ムレスズメの仲間）やポプラを選定してきたが、シャルホワイスは耕作作物の害虫を媒介することが明らかになったため、今後はハイラス（ノニレ）を中心に育苗することに決めた。ハイラスの成長はシャルホワイスほどではないが、虫が着きにくく丈夫で、密植すると防風効果が高いため、今後の防風林事業の中心となる樹種と考えている。

日本に飛来する黄砂の半分はモンゴルが由来だという研究もあり、防風林事業は将来的にも大きい意味を持つ可能性がある。

今後とも村民参加型の防風林を作る方向性である。

2010年春に植栽した農場の防風林シャルホワイス・ハイラスの状況は以下の通り。



防風林（2010/07/05 撮影）
1年目なのでまだ小さい。



防風林（2011/09/18 撮影）
2年目樹高 40cm 程度

③ 苗木育苗事業

農場内では苗畑を作り、トーラ村緑化植林のために、苗木を管理している。成長した苗木から、再び苗木を取ることができるため、将来を通じて安定的に苗木の供給が可能となる。

2011年秋季にはセレンゲ県で来春の苗木確保のため種子採取作業を行った。アカマツ種子の豊凶は年毎に違うが今シーズンは豊作で結実も良好であった。



アカマツ種子採取状況

アカマツの球蕨を農場へ運搬し、球蕨から種子を取り出す作業を行った。



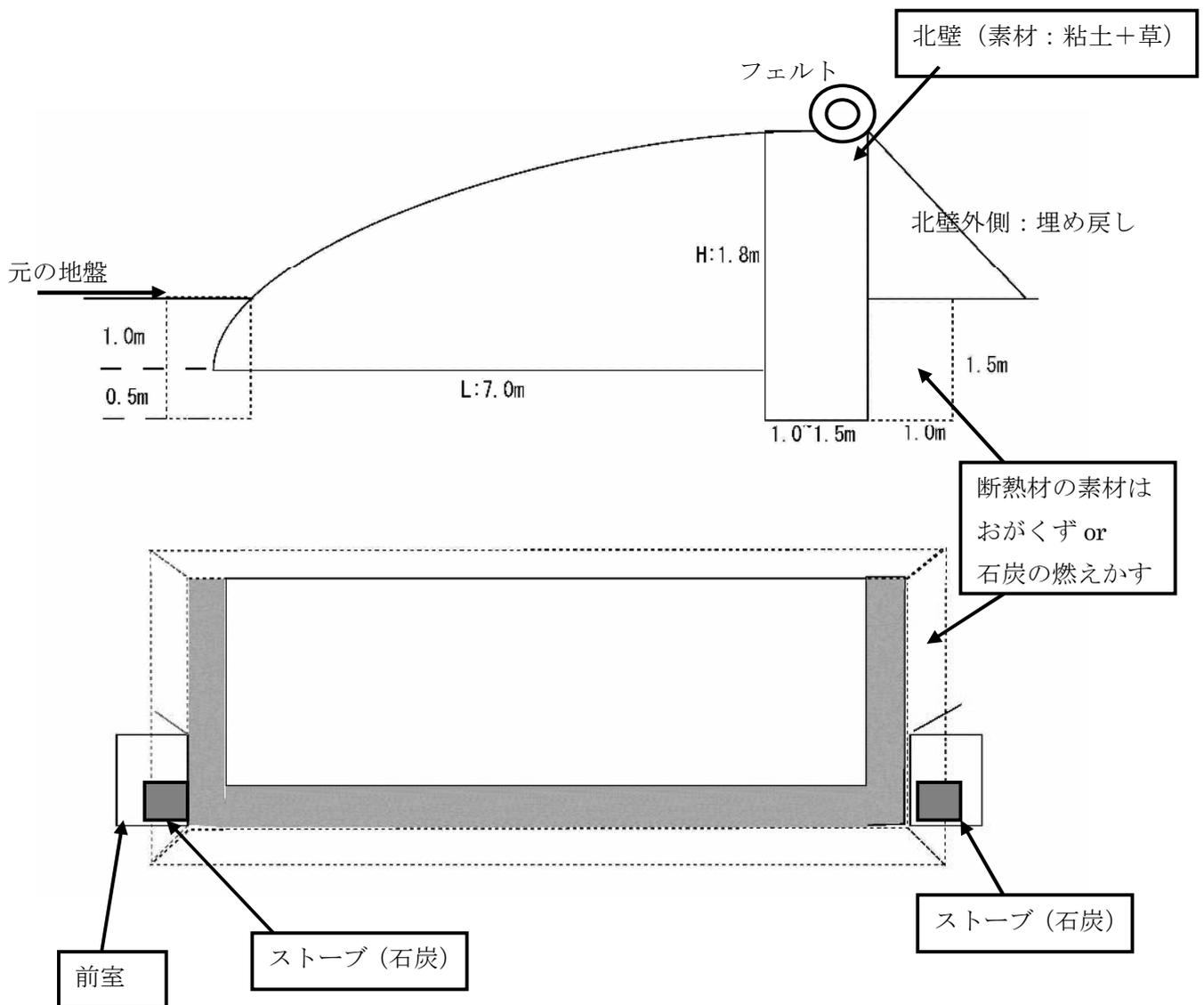
アカマツ種子採取状況

アカマツの育苗を2012年から取り入れ、村緑化用苗として提供する。アカマツは常緑樹のため冬場も緑を楽しむことが出来るようになればと考えている。

④ 日光温室の造成

モンゴルでは秋～冬～春季の農作物の生産は皆無であり、商店では夏の備蓄分の国内物と中国からの輸入野菜が並び、健康上の問題・食生活の偏りが問題視されるところであり、充実が図られるべきである。

日光温室は、寒冷地に適応させた半地下温室のことであり、内モンゴルで実績がある。モンゴルの気候・風土に適した形状を考案・改良し、モンゴルで苗木育成のための温室及び野菜の周年施設栽培もしくは3季栽培を確立することを目的とし、苗畑で試験的に1棟の建設を行っている、計画図と現地の状況を次に示す。



図面 (試験棟 ver.01)

